

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
再生医療の実現化支援課題
研究開発課題評価(令和5年度実施)
事後評価結果報告書

研究開発課題名	再生医療実現化を加速する次世代型支援基盤とOJT体制の構築
代表機関名	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター
研究開発代表者名	松山晃文

1. 総合評価

優れている

【評価コメント】

臨床研究や治験に必要な枠組みの提示や、疾患特異的 iPS 細胞を事業利用するための留意点等の取りまとめを実施した。それらを活用して、再生医療及び iPS 創薬の成果を円滑に実現化できるよう、研究実施機関へのデマンドプル型の支援を進めた。国際的な治験・臨床研究進捗状況やバンク整備状況等の動向について、AI 等を活用した調査研究を進め、AMED や内閣府へ最新情報を提供した。さらに、プロジェクトマネージャー会議において、前述の調査研究成果の共有、再生医療の実用化に向けた問題点や成功例等の情報提供、ノウハウ事例等の集約を通して、機関連携の強化や他課題への活用を推進した。これらの取組については、当初計画した事業目的を達成し、高く評価できる。一方、研究期間内に実施機関の技術者や若手研究者の教育について、一定以上の成果を残したものの、個人の経験値を体系化した支援人材の育成システムの完遂は困難であったと考えられる。生成 AI などの時代においても、多様な経験を経た人材の育成や、オールジャパンでの支援体制の構築は重要であり、本事業の成果を発展させることで、引き続き次世代の支援人材を育成していくことを期待する。さらに、非臨床 PoC 取得や AICO (Animal Intervention Comparison Outcome) に関する支援においても、研究者からのフィードバックを踏まえた継続的改善を進めることが望ましい。